

まえがき——今、何が起きているのか？ 7

I 社会の生命力

話題化される性質 17

顔文字考 20

すべてが「不滅の小説」 27

何が監視社会の恐怖なのか 32

奇妙な感覚の麻痺 35

【対談】

亀山郁夫……なぜ今ドストエフスキーなのか 37

中島岳志……「血盟団事件」とテロリズム 51

戦死者の個性 75

「握手」論 78

身体の「極論」 81

「格差」の〈内向き感〉 83

気にしないのも自由 86

パリのラーメンは、なぜか懐かしい 89

「ウマイ」という感覚の遅さ 91

熟年別居 93

生き辛さの原因は？——『私とは何か——「個人」から「分人」へ』 95

現代を「幸福に生き、死ぬ」ということ——『空白を満たしなさい』 99

被災地までの距離 102

【対談】

森達也……………フィクションとノンフィクションは「死」をどう紡ぐか

大澤真幸……………「3・11」以後の日本社会の希望をめぐって 129

II アート&エンタテインメントの生命力

大空家のロベルトさん 157

ベストセラーと感染爆発 パンデミック 160

- 「アバター」はどっちの「エージェント」？ 163
- マイケル・ジャクソン、あるいは最高のメディア
エンタメ化される「悲惨」 169 166
- 時間、あるいは増やせない富 172
- 「ファスト」はあらゆるジャンルで 175
- セックスはなぜ悲しいか 178
- この中では一番 181
- 反体制とジレンマ 184
- プロと時間のコスト 187
- 『知られざる傑作』的マッサージ 190
- そして、リヴェンジは果たされた
——増田俊也『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』 193
- 芸術は広く告ぐ——横尾忠則さんのこと 196
- 主体のスプリット——「Y字路」から見直す横尾芸術 201
- 「わからないもの」の世界へ——森村泰昌論 206
- 静かに瞬きする光のほとり——森山大道論 219

波の狭間に仄めく顔——モードとアートの「複雑な関係」 226

グールドのヘンなシヨパン 230

先を急ぐ世界、滞留する世界——『ペレアスとメリザンド』 232

音楽に先行するもの——コルトレーンとマイルス 236

「ゴミ御殿」は、現代建築の問題となり得るか？ 239

身体と出現——深澤直人論 242

III 文学の生命力

フィクションの倫理 251

天才の仕事——大江健三郎「不意の啞」 258

個体、存在、「身理」——古井由吉「水／櫛の火」 260

花は秘せられて、しかも常に咲き、……——瀬戸内寂聴『秘花』 270

読者は山根忍と出会い、彼女を忘れない。——田中慎弥『燃える家』 274

未来を訪ね、現在に帰る——『ドーン』 279

愛とは結局のところ、何なのか？——『かたちだけの愛』 282

【対談】

- 高橋源一郎……二一世紀の「人間」を描く 285
田中裕介……『サロメ』を更新する 307

生きようとする人間の力——M・エリアーデ『迷宮の試煉』 328

魔術的博搜家の世界——『種村季弘傑作撰』 332

文豪の肉声 336

なぜ「山椒大夫」か？ 339

誠実な懐疑家の肖像——芥川龍之介『或日の大石内蔵之助』 342

美、絶対者、政治——三島由紀夫『サド侯爵夫人』『わが友ヒットラー』 347

【対談】

- 三浦雅士……三島由紀夫とは何だったのか 351
古井由吉……震災後の文学の言葉 371

あとがき 393